



かながわ スポーツタイムズ

令和元年(2019)

Vol.75



東海大学湘南校舎体育会
ラグビーフットボール部
GM兼監督

きむら ひでゆき
木村 季由 氏

◇インタビュー

「ラグビーが教えてくれること」

- ◇総合型地域スポーツクラブ活動紹介
- ◇スポーツリーダーバンク登録指導者活動だより
- ◇ラグビーワールドカップ 2019™開幕直前特集

「ラグビーが教えてくれること」

東海大学湘南校舎体育会
ラグビーフットボール部
GM兼監督

木村 季由 氏



木村 季由 (きむら ひでゆき)

日本体育大学体育学部体育学科卒業。日本体育大学大学院体育学研究科でバイオメカニクスや運動生理学を専門に学び修了。98年より、東海大学体育学部講師となり、体育会ラグビーフットボール部監督に就任。現在同大学教授。これまでに関東大学リーグ戦優勝8回、大学選手権準優勝3回。日本ラグビーフットボール協会強化委員、コーチ委員、テクニカルスタッフ、U19・U23・日本A代表のフィットネスコーチを務めた。日本スポーツ協会ラグビーフットボールマスターコーチ、コーチトレーナー、オーストラリアラグビーコーチレベル4などの資格を持つ。

ラグビーとの出会い



テレビで試合を見て興味を持ったのが最初です。図書館でラグビーについて調べたところ、「コンタクトがあって、様々な役割があり、いろいろな人ができるスポーツである」みたいなことが書いてあったことを覚えています。中学校では陸上競技をやっていました。短距離走が専門でした。それなりに速かったのですが、陸上には壁を感じていました。同じ地域にすごい選手がいて、当時100mで10秒台の記録を持っていました。彼には太刀打ちできないので、他のスポーツをやろうと思ったのが大きな理由です。また、ラグビーなら高校から

始めても大丈夫だろうという計算もありました。決めたことはとことんやるタイプなので、「折角やるならばラグビーの強い学校に行きたい」と考え、強豪校であった本郷高校へ進学することにしました。

高校生活は想像以上に大変でした。イメージしていたものと現実とのギャップに打ち碎かれながら、何とか最後まで続けたというのが本当のところですが、でも、一番大変だったのは母親でした。毎日弁当を2個作って、家に帰ってくれば、泥だらけのジャージを毎日洗ってもらってましたから。帰宅して玄関で寝てしまうこともありました。それでも、「自分でやると決めた以上はやらなければいけない」という気持ちは持っていました。紆余曲折ありましたが、花園に出場することもできました。大浦一雄先生という情熱的な指導者に出会い、鍛えてもらったことが、今も自分の指導のベースになっていることは間違いありません。

日本体育大学に進学後も4年間ラグビーを続けました。大学生活では、「自分がしっかりしなければいけない」ということに気づかされたことが、今に生きていると思っています。また、同じ目標に向かって日々一緒に生活してきた仲間ができたことは、掛け替えのない財産だと思っています。

紆余曲折

教員になることを志望して大学に入ったものの、周りの人間が企業への就職を決めていったこともあり、自分も一般の企業に勤めることにしました。社会人リーグに所属する会社のチームでプレイをするつもりでいましたが、配属先が多忙な部署であったこともあり、練習にほとんど参加することができませんでした。上司に相談したところ、それならば方向転換した方がいいという助言もあって、サンリオという会社に転職することにしました。会社にラグビー部はあったのですが、競技というレベルではなく楽しみながらプレイをしていまし



た。クラブチームのようなもので、自分の想像していたものとは違いましたが、最初の職場を辞めた時点でプレイヤーとしてキャリアに見切りをつけていたので、会社の人たちと仲良くするためにラグビーをやっていたという感じでした。

仕事も面白くて、社内でそれなりに評価をいただいていたのですが、大学の同級生が日本代表で活躍する姿や指導者として現場に立つ姿を見て、燻っていたものが再燃してきたということでしょうか、ラグビーの現場に行きたいと強く思うようになりました。

そんな時、大学時代のラグビー部ヘッドコーチで、当時流通経済大学監督であった上野裕一先生を訪ねてお話をさせていただいたところ、指導のお手伝いをさせていただくことになりました。その頃の流通経済大学ラグビー部は、チームとして力を付けて上位のリーグに上がっていきこうという時期でしたので、指導の面白さも感じることができました。同時に難しさも感じていました。やはり最初の仕事の仕方は、一生残るものだと思うのですが、上野先生の言葉や考え方はとても影響を受けました。上野先生が流通経済大学での指導で大切にしていた“人間教育”は、指導者としての私の最も大切なものになっています。

指導者としてのスタート



ラグビーの指導者としてスタートはしましたが、教員として現場に立つことが目標でしたので、もう一度勉強をし直すため日体大に戻ることになりました。専攻科で1年勉強した後、大学院に行きました。バイオメカニクスの石井喜八先生に、本気で勉強するならうちの研究室に来ないかと誘っていただき、助手までやらせていただくことになりました。当時石井先生からは、「予測して仮説を立てることはいいが、そうなるだろうという思い込みで研究を進めるのはよくない。だから、テーマとしてラグビーは切り離していかなければならない。基礎研究をしっかりとやりなさい。」と指導されていました。ラグビーをやりたくて大学に戻ったのでジレンマがあったのですが、本当の基礎の部分を押さえていただいたことに感謝しています。でも、週末には隠れてラグビーの指導に行っていました。

そんなある日、当時日体大の学長をされていた綿井永寿先生から呼ばれて「東海大の監督にならないか」といわれて……。リーグにおける東海大の存在には気づいていましたが、情報は全く持っていませんでした。当時の東海大の体育学部長であった齋藤勝先生が日体大を卒業された方で、綿井先生のところへ、誰か指導者がいないかと相談されたようです。ちょうど東海大のラグビー部が関東大学リーグの2部に落ちたタイミングでした。技術指導もさることながら、学生の日常生活に目を配ることができて、元気な人間が希望であったようです。当時のラグビー部のOBからは、木村季由とは、どこの誰？という感じで思われていたようです。そういう1998年のスタートでした。

指導で大切にしていること

学生達にいつも言っているのは、“ラグビー選手である以前に東海大学の学生である”ということです。指導をする上での私の一番の信条は“日常の積み重ねが競技に反映される”ということです。グラウンドでは全ての選手が頑張っています。でもラグビー以外はいい加減ということでは、必ずどこかでボロが出てくるものです。いろんなシーンで周りを気遣うことや、自分の成長のためにいろんなことを前向きに捉えることができる、そのことがすごく大事だと思っています。ラグビーという競技は、常に変化する状況に適切な判断が求められるという特徴があって、決まったことだけやればいい訳ではなく、高度な意識性が必要です。それは、日常の生活の中で育まれていくものだと思っています。だから、その辺を疎かにしている人間というのは競技力も上がりません。また、学生スポーツですから、周りから何を期待されているか、今の立場でやらなければいけないことをちゃんと自覚でき



るかどうか、この辺りも大切にしています。大学ラグビーがゴールではなく、選手としてのピークはもっと先にあるわけで、そのことを見越して大学4年間で何をするかということを考えさせるのが大事だと思っています。大学ですべてを詰め込めばいいということではないと思います。大学時代に本当に時間のかかるトレーニングを積み重ねて、体づくりから、ケガに対するケアまでしっかりやる。そんなことが習慣化している選手は間違いなくトップリーグに行っても長くプレイできます。トップリーグで長くプレイしている人たちは、間違いなくそれができている人たちです。そして、チームの中心になっていきますし、ひいては引退後もチームのスタッフとして中心的な役割を果たしています。ここ10年くらいでトップリーグに選手を輩出できるようになったのは、こういった積み重ねの結果ではないかと思っています。

チーム内のコミュニケーションについて

ミーティングはよくやっています。今年は特に多いです。何かある度にやっています。問題があるからやる訳でなく、何かひとつのテーマをしっかりと掘り下げて全員で共有していくことを、今年のキャプテンが特に大事にしているのでやっています。指導者側から選手に伝達するようなミーティングは必要最低限にして、あまりやらないようにしています。自分たちが必要だと思って問題意識をもってやる方が、聞き逃すことが少ないです。指導者側からの一方的な伝達だけだと、選手にはちょっとしか残らない。また、答えを出すことを焦ってはいけなく考えています。自分達の答えを持たないと、次に何をするかということが決まってくないですし、ラグビーの競技そのものが、常に臨機応変に判断していかなければならないことが多いので、能動的な作業はとても重要だと思っています。



昨年のチームの“アタアタ・モエラキオラ”は外国籍の学生としては初めての主将でしたが、私の中では特に外国籍だという意識はなく、正しいことを正しくできる、一番模範になるようなところがありました。彼は主将としてよく頑張ってくれました。ただ、周りがもっと支えなければいけなかった。今の学生たちは、リーダーを決めてしまうと、リーダーの言葉を待ち、リーダーに依存する傾向があります。そうなると、チームとしてできることは限られてしまいます。リーダーにはリーダーの役割があり、その他の人たちにも役割があつて、その役割を果たさないでリーダーに依存してしまえば、チームとして成長できない。昨年は、その辺りが少し足りなかったという反省があります。なかなか、難しいのですが、性格的な問題として終わらせてしまうのではなく、それができるような組織を、みんなで関わり合いながら作っていかなければならないと思っています。

今後の目標



チャンピオンスポーツをやっている以上は、トップを目指していくことは当然だと思っていますが、ラグビー競技の裾野を広げる活動や、丹沢祭（ラグビー部主催のイベント）を含めた社会貢献活動等できることはたくさんあると思います。

競技力だけに特化するのではなく、色々なことに貢献でき、そして学生たちが積極的に関わっていくような組織にしていくことが目標です。

日本のラグビーの強化という視点でも、やらなければいけないことがあると思っています。文化的な価値を高めていくことや、世界と勝負できるように競技力を高めていくことは、当然取り組むべき課題だと考えています。代表が強くなければ人気も出ないし、普及もしないと思います。そう考えていくと、大学ラグビーがもっとやらなければいけないということはあると思っています。18歳から22歳の年代は、世界ではプロの選手です。日本では、ほとんどの選手が大学を通過してからトップリーグに行くのが現状であるなかで、大学の責任は大きいと思っています。それぞれの大学が独自のやり方でやることを否定はしませんが、選手育成の観

点で言えば、大学全体が同じ方向を見ていかなければならないと感じています。変化を恐れず頑張っていかなければならないと思っています。

トップレベルで活躍するOBに対して

日本代表で東海大学の卒業生がプレイできるということは単純に嬉しいです。彼らもそれを目指してきたわけですから、自分の力を出し切って頑張りたいと思います。選手として何回もチャンスがあるわけではないので、緊張感もあるでしょうけれども、誰もができる経験ではないので、自分の役割を果たすなかで、素晴らしい経験をしてほしいと思います。これは、現役選手にとっても刺激になっています。雲の上の存在ということではなくて、在学中は同じように過ごしていた先輩が頑張っている、これはとても大きなことです。クラブの方針にも日本代表の輩出ということ掲げていますし、15人制だったらワールドカップに、7人制だったらオリンピックに出場して、更には結果を出すことを目標に頑張りたいと思います。そういうステージに立てるとということは非常に喜ばしいことです。でも、なによりも、そこまで行きついている本人の努力に敬意を表したいと思います。



日本代表主将のリーチマイケルも東海大学出身です。今は完璧な日本代表の主将になりましたが、大学時代は、まだまだ成長過程だったのでしょうね。当時は練習で、「何でこんなことをやらなければならないのかわからない。」ということもありました。当時の練習が、基本戦術を繰り返すという内容だったことありますが、だからといって、放り投げたり逃げ出したり、いい加減にやっていたということは絶対になかった。体の大きな選手が苦手とするようなトレーニングも、コツコツと一生懸命にやっていました。

彼はよく、日本人より日本人らしいと言われますが、重い荷物を持っている人に手を差し伸べたり、他人の靴を揃えたり、そんなことが自然体でできていました。高校時代に学んだのか、ホストファミリーから学んだのでしょうか。ラグビーへの取組みだけでなく、彼の日常の姿を見て人はそう思うのだと思います。そのことが周りの人を応援させるのだと思います。

当時から意識の高い選手で、いろいろな壁や悩みを抱えながら選手生活を送っていましたが、日本で頑張っていこうという気持ちを持ったのが大学時代で、日本代表になるという選択をしたのは大変な決断だったと思っています。ワールドカップ本番でも頑張ってもらいたいですね。

いよいよ開幕！ ラグビーワールドカップ2019™

ラグビーワールドカップ2019™がいよいよ開幕しますが、神奈川県で決勝・準決勝を含めて7試合が開催されること、そのことについて想像できますか？ それが一休どういうものなのか、想像できない方が大半だと思います。私もワールドカップの決勝を会場で観戦した経験がないので、映像等から知るしかないですが、他のスポーツとは違う盛り上がり方があるのではないかと思います。それが横浜で、あの大きな器（横浜国際総合競技場）で開催されるというのは、ちょっとまだ実感が沸きません。このようなことを言うてはいけないのですが、何か夢みみたいな話だなというのが率直な気持ちです。ファン目線ですが・・・。



この競技の魅力を感じるには、競技場に足を運んで、ライブ感を肌で感じて、音で聞いて、エネルギーを体感することが一番です。我々が虜になっているのと同じように、ラグビーを知らない方であってもその魅力は十分に伝わるとおもいます。パブリックビューイングで観戦することもできますし、テレビでも時差がなく日本時間で観戦することができるというのはすごいことです。何か昔から敷居が高く、観戦マナーなどの厳しい印象を持っている方多い

ようですが、そんなことを考える必要はないので、好きなように楽しんで応援してほしいと思います。

ラグビーの教育的価値・文化的価値

ラグビーには“ノーサイド”“キャプテンシー”など、競技特有の言葉や慣習があって、それをとても大切にしています。「オフサイドは、自分のサイドを離れてプレイするからダメで、なぜダメかという、元々レフリーがない、お互いが楽しむためにやっていることを、ズルをして勝ったとしても全然楽しくないじゃないか」と説明すると、子どもは理解してくれます。「じゃあ、楽しくないからズルしちゃいけない」ということに繋がっていく。

“アフターマッチファンクション”は、試合後に両チームが行う懇親会のようなもので、イギリスのラグビースクールでは小学生くらいの子どものスピーチをします。「今日の試合相手はすばらしく、ゲームができてすごく良かった。試合を進行してくれたレフリー、応援してくれた家族に感謝します。最後に、僕にラグビーを教えてくれたお爺さん、ありがとう。」みたいなスピーチをする。子どもが最初からこんなスピーチができる訳はないので、大人やスクールの先輩がスピーチをする姿を見て学んでいくのだと思いますが、すばらしいですね。

レガシーというと、モノや制度を思い浮かべてしまうものですが、ラグビー競技特有の言葉や慣習は、普遍的な価値を私たちに気づかせてくれる立派なレガシーなのではないかと思っています。こういったラグビーの教育的・文化的価値を大切にしていきたいと思っています。

あれだけの人数が入り乱れてプレイする中で、倒れている選手を踏んづけるような選手は誰もいない。踏んでやろうかって気持ちはどこかにあるかもしれない。でも、絶対そうしたことはしない。相手を痛めつける競技ではない。その上にたてば、どんなに激しいプレイをしてもいい。そんなところがラグビーの持っているルールの深さだと思います。シンプルですけど。ボールを前に投げてはいけなくらいで、あとは、蹴ってもいいし、投げてもいい、走ってもいい、パスしてもいい。何やってもいいだけに、考えなければいけないことがたくさんあります。それが、この競技がいろいろな価値を生み出す原動力となっているのではないかと思います。ラグビーが持っている本当の価値はそういうところにあると思います。



～取材を終えて～

取材を通じ、“ベース”“積み重ね”など、木村監督が大切にしている考え方がよくわかりました。また、言葉の一つひとつ説得力があり、心に響きました。トップレベルのチームに育て上げた指導者でありながら、飾らない木村監督の人柄によるものではないかと感じました。

今後、本格的なラグビーシーズンに突入しますが、悲願の大学日本一に向けて、ぜひ頑張ってください。我々も応援しています。（体育センター所員）

東海大学ラグビーフットボール部 関東大学ラグビーフットボールリーグ戦及び

全国大学ラグビーフットボール選手権大会の戦績（木村監督就任後）

年度	関東大学リーグ戦	大学選手権	日本選手権
1998	2位（2部）		
1999	優勝（2部）		
2000	7位		
2001	7位		
2002	3位	2回戦	
2003	4位	6位	2回戦
2004	6位		
2005	4位	1回戦	
2006	3位	2回戦	
2007	優勝	2回戦	
2008	優勝	ベスト4	

年度	関東大学リーグ戦	大学選手権	日本選手権
2009	優勝	準優勝	1回戦
2010	優勝	ベスト4	
2011	2位	1回戦	
2012	優勝	ベスト4	
2013	4位	2ndステージ	
2014	2位	ベスト4	1回戦
2015	優勝	準優勝	
2016	優勝	準優勝	
2017	2位	ベスト4	
2018	優勝	ベスト8	

スポーツリーダーバンク登録指導者活動だより

【スポーツウエルネス吹矢】 いしざか はじめ 石坂 甫 さん



- ・ 一般社団法人日本スポーツウエルネス吹矢協会
師範 教育部長
- ・ 神奈川県スポーツウエルネス吹矢協会会長
- ・ スポーツウエルネス吹矢歴 16 年

多くのスポーツが、長い歴史の中で発展してきましたが、「スポーツウエルネス吹矢」は、1998年に協会が設立された後、2014年に一般社団法人へ移行した比較的歴史の浅いスポーツです。もともとは健康に良いとされている腹式呼吸を楽しみながら身に付ける事を目的に考案されました。ゲーム感覚で楽しみながら健康に役立つスポーツとして注目を集めています。

競技方法は5～10m離れた的に向かい息を使って矢を吹き得点を競います。用具は筒（内径1.3cm、長さ120cm）と矢（長さ約20cm、重さ約0.8gのフィルム製で先端に金具付）および発泡樹脂製の的が主なものです。的は中心の直径6cmが7点、その外側が幅3cmの同心円で其々5点、3点、1点になっています。1回に5本の矢を吹き、矢が刺さった位置の合計点が得点となります。競技では一回に5本の矢を吹き、競技会毎に決められた回数合計点を競います。

健康効果の秘訣は腹式呼吸をベースにしたスポーツウエルネス吹矢式呼吸法にあります。深い腹式呼吸により細胞の活性化に役立ち血行促進、精神の集中や内臓の諸器官にも良い影響があります。また集中力の向上も期待出来ます。

現在、全国で多くの会員が健康スポーツとして楽しんでいます。会員の平均年齢は70才と高いのも特徴ですが、最近では大学生のクラブ活動にも採用され、2019年には関西学生連盟で対抗戦も行われました。神奈川県内には、3000人以上の会員と115支部が有り公民館や地域センター等で練習に励んでいます。

大会は協会本部主催の全国規模の一般成人を対象にしたものと、障がい者大会・ジュニア大会があります。県内では、県大会・オープン大会の他にも地域大会等が有り大勢の方の参加があります。最近では国体のデモンストレーション競技に採用され、ねんリンピックの正式種目としても採用されることになりました。2020年の岐阜県大会に続いて2021年開催の神奈川県大会でも正式種目として採用されています。まだまだ歴史の浅いスポーツウエルネス吹矢ですが、手軽に楽しめる生涯スポーツとして更に県内に広めていきたいと思っております。



スポーツリーダーバンクとは・・・神奈川県内で活動でき、(公財)日本スポーツ協会公認指導者、県や市町村が養成した指導者などの資格・要件をお持ちの方に登録いただくことによって、その種目の指導を受けたい方々に紹介させていただく制度です。登録を希望される方は、「登録・紹介事務取扱要領」等をご確認の上、「登録申請書」に必要事項をご記入いただき、資格を証明する書類のコピーとともに、郵送（持参可）またはファクシミリにてお送りください。県立体育センターホームページからも、「登録・紹介事務取扱要領」や「記入例」等をご覧になれます。

総合型地域スポーツクラブ活動紹介

特定非営利活動法人 CLUB TEATRO

【横浜市】

CLUB TEATRO（クラブテアトロ）は、横浜市緑区・都筑区地域を中心に、サッカーを中心としたスポーツ活動を展開する総合型地域スポーツクラブです。サッカー活動では、都筑区にある屋外人工芝フットサルコート【テアトロスタジアム】を拠点に、2歳から壮年世代まで、男女約500名の会員が在籍し、レベルや目的に応じたプログラムに参加し、サッカーを通じてスポーツを楽しんでいただいています。

サッカー以外の活動では、運動機会の少ない小学生を対象に、ニュースポーツ等様々なスポーツを行い、身体を動かすことの楽しさを知ってもらうことを目的とした朝練スポーツ教室や、健康の保持増進を目的に、女性対象のヨガ教室、ZUMBA（ダンス系のエクササイズ）教室を開催しています。どの活動も、専門スタッフが丁寧に熱心に携わり活動しています。

クラブ名のTEATRO（テアトロ）とは、スペイン語で劇場の意です。様々なスポーツ活動を通して、行う人、観る人、支える人、そして地域の方々が老若男女問わず誰もが気兼ねなく一同に集い、感動や活気を共有できる「場所=劇場」を創りたいという強い思いを持って取り組んでおります。これからも、スポーツ活動を通じて、地域に、人々に、活気を届けられるよう努めていきます。



特定非営利活動法人 ライフネットスポーツクラブ

【横浜市】

ライフネットスポーツクラブは、平成19年10月に青少年の健全育成や高齢者の体力増進を図る事を目的とした、特定非営利活動法人として設立いたしました。理事長が私財を投じ3年の歳月をかけ、ナイター付き天然芝サッカーグラウンド、ナイター付き人工芝テニスコート、ナイター付きフットサルコート1面と、充実した設備を整備し、地域住民がスポーツを通じて男女や子供から高齢者まで垣根を外し心から楽しめる場所を提供し、豊かな人間関係の構築や地域住民の体力向上を目指しております。また、お互いを思いやり相手の立場に立って物事を考え社会性豊かな人間を育むことのできるクラブを目指しています。そのなかで、当クラブ理事長の「礼儀、感謝、尊敬」という理念のもと、心を大切に、心技体を備えた人材を育成することを大切に、活動しています。

サッカー部門を中心に、スクール活動として幼児、小学生、中学生、シニアクラスと幅広いカテゴリーで活動しています。また、送迎付き学童保育も行っており、地域の子育事業にも貢献しています。ライフネットスポーツクラブの活動目標は、楽しく、優しく、厳しく、思いやり、やる気を大切にし、子どもたちが、思いっきり遊び、楽しめる環境作りにクラブ全体で努めてまいります。





ラグビーワールドカップ 2019™開幕直前特集

9月20日(金)の開幕まであと1週間！ 今からでも楽しめるラグビーワールドカップ 2019™



大型スクリーンで観戦しよう！！

「ラグビーワールドカップ 2019™ファンゾーン in 神奈川・横浜」

“競技場で観戦してみたいけど、チケットを持っていない” そんな場合は、「ラグビーワールドカップ 2019™ファンゾーン in 神奈川・横浜」に行ってみませんか。

ファンゾーンとは、大会期間中に行われる無料のイベントスペースで、大型スクリーンでのパブリックビューイングが行われ、気軽に飲食しながら、みんなで試合が楽しめる他、ラグビーの体験など様々なプログラムを楽しむことができます。毎週土日を中心に開催し、48試合中 32試合を日本最大級の大画面で生中継する予定です。

【開催日】

9月20日(金)、21日(土)、22日(日)
28日(土)、29日(日)
10月5日(土)、6日(日)、12日(土)
13日(日)、19日(土)、20日(日)
26日(土)、27日(日)
11月1日(金)、2日(土)

【会場】臨港パーク

- ・横浜高速鉄道みなとみらい線「みなとみらい駅」より徒歩5分
- ・JR京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町駅」より徒歩15分

【主な内容】

- ・大型画面でパブリックビューイング
(全48試合中32試合を生中継)
- ・ラグビーアクティビティ
(こどもから大人まで楽しめる体験)
- ・グルメ
(神奈川・横浜の名店から大会出場国の料理まで充実のラインアップ)
- ・ステージイベント
(日本と世界の文化に触れる魅力たっぷりのステージイベント)

詳細：<https://rugby.city.yokohama.lg.jp/>



FANZONE

ラグビーワールドカップ 2019™ ファンゾーン in 神奈川・横浜

“一生に一度”を体験しに行こう。

32試合を大画面で中継！ こどもから大人まで楽しめる！ 地元の名店から出場国の料理まで！ 日本と世界の文化に触れる！



日時：2019.9.20(金)～11.2(土) 12:00～22:00

開催時間は開催日より異なります。詳しくはホームページでご確認ください。

開催日：9/20(金)、21(土)、22(日)、28(土)、29(日)
10/5(土)、6(日)、12(土)、13(日)、19(土)、20(日)、26(土)、27(日)
11/1(金)、2(土)

<https://rugby.city.yokohama.lg.jp/>

会場：臨港パーク

- ・横浜高速鉄道みなとみらい線「みなとみらい駅」より徒歩5分
- ・JR京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町駅」より徒歩15分



入場無料

ラグビー用語解説 (アフターマッチファンクション)

「アフターマッチファンクション」は、ラグビーのカルチャーのひとつで、試合が終わったら敵味方関係なく、全員で同じ酒を飲んで、お互いを讃え合う場のことです。トップリーグでも試合が終わった後にひとつの会場に集まって、みんなで試合の内容を語ったり、一緒に酒を飲んで、やはりラグビー用語で「ノーサイド」という言葉がありますが、そのノーサイドを行う会のことを言います。試合中には半分殴り合いのようになるほど熱くファイトしていた選手とも、ファンクションでは「あれ、痛かったぞ」などと言いながら、ケロッとしてる事が多いですね。アフターマッチファンクションには必ずキャプテンの出番があって、相手を讃える言葉を言います。ひと通り話した後、最後に「スリー・チアーズ・フォー・〇〇〇(相手チーム名)」と言って讃えます。cheer が応援や励ましという意味ですから、相手チームに対して3つの応援を行うってことだと思います。これを両チームが順に行います。

(解説：真壁 伸弥氏)

テレビで観戦しよう！！

生中継での放送予定をピックアップしました

日程		対戦カード	開始時間	放送局	会場
9月20日	金	日本 vs ロシア	19:45	NHK-BS、日本テレビ	東京
9月21日	土	オーストラリア vs フィジー	13:45	NHK総合	札幌
		フランス vs アルゼンチン	16:15	日本テレビ	東京
9月22日	日	ニュージーランド vs 南アフリカ	18:45	日本テレビ	横浜
		アイルランド vs スコットランド	16:45	日本テレビ	横浜
9月23日	月	イングランド vs トンガ	19:15	NHK-BS	札幌
9月26日	木	ウェールズ vs ジョージア	19:15	NHK-BS	豊田
9月28日	土	イングランド vs アメリカ	19:45	日本テレビ	神戸
		アルゼンチン vs トンガ	13:45	NHK-BS	花園
9月29日	日	日本 vs アイルランド	16:15	NHK総合	静岡
9月29日	日	オーストラリア vs ウェールズ	16:45	日本テレビ	東京
9月30日	月	スコットランド vs サモア	19:15	日本テレビ	神戸
10月2日	水	ニュージーランド vs カナダ	19:15	NHK-BS	大分
10月4日	金	南アフリカ vs イタリア	18:45	日本テレビ	静岡
10月5日	土	イングランド vs アルゼンチン	17:00	日本テレビ	東京
		日本 vs サモア	19:30	日本テレビ	豊田
10月6日	日	ニュージーランド vs ナミビア	13:45	日本テレビ	東京
10月9日	水	スコットランド vs ロシア	16:15	日本テレビ	静岡
		ニュージーランド vs イタリア	13:15	日本テレビ	豊田
10月12日	土	イングランド vs フランス	17:15	NHK-BS	横浜
		アイルランド vs サモア	19:45	NHK総合	福岡
10月13日	日	ナミビア vs カナダ	12:15	日本テレビ	釜石
		日本 vs スコットランド	19:45	NHK-BS	横浜
10月19日	土	準々決勝1 (プールC1位 vs プールD2位)	16:15	NHK-BS	大分
		準々決勝2 (プールB1位 vs プールA2位)	19:15	日本テレビ	東京
10月20日	日	準々決勝3 (プールD1位 vs プールC2位)	16:15	日本テレビ	大分
		準々決勝4 (プールA1位 vs プールB2位)	19:15	NHK-BS	東京
10月26日	土	準決勝1 (準々決勝1勝者 vs 準々決勝2勝者)	17:00	NHK-BS	横浜
10月27日	日	準決勝2 (準々決勝3勝者 vs 準々決勝4勝者)	18:00	日本テレビ	横浜
11月1日	金	3位決定戦	18:00	NHK-BS	東京
11月2日	土	決勝	18:00	NHK-BS、日本テレビ	横浜

楽しみながら勉強できるラグビー入門書

『ラグビーにゃん1 猫でもわかるラグビー入門〔初級編〕』

著者：そにしけんじ ラグビー解説：廣瀬俊明

ワールドカップ開幕直前ですが、ラグビーの事をよく分からないので勉強したいという方にぴったりのラグビー入門書を紹介します。モフモフな猫たちがラグビーに挑戦する漫画で、癒されながらラグビーの基礎知識が身につくようになっていきます。基本技術やルールを元日本代表キャプテンの廣瀬俊明氏が解説。また、2019年9月初旬に『ラグビーにゃん2 猫ラグビーワールドカップ編』が発売されることが決まりました。この2冊があれば、ワールドカップをより楽しく観戦することができそうです。

光文社 定価 (本体 800 円 + 税)



「かながわスポーツタイムズ」に関するご意見、ご感想をお待ちしております。

発行回数 年4回

神奈川県立体育センター

TEL 0466-81-2570(代表)

FAX 0466-83-4622

〒251-0871 藤沢市善行7-1-2

県立体育センター

検索

体育センターホームページ

体育センターツイッター

